



アフリカ日本協議会 (Africa Japan Forum)

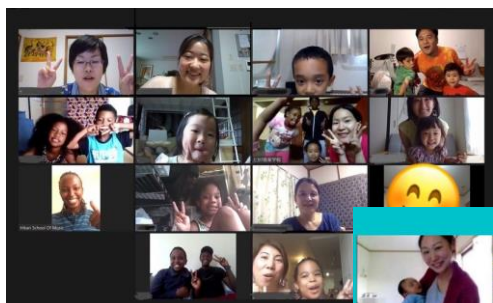
2020年度 活動報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

アフリカンキッズクラブ

アフリカルーツの子ども・ユースが集い、楽しみ、経験や思いを共有しあう

01



8月22日ケニアの音楽学校の協力による、ケニアと日本の子どもたちの交流イベント

2021年2月28日のダンス
クラスAkwaaba Kids



アフリカンキッズクラブは、2020年度もさまざまな活動を実施しました。**アフロビーツダンス**の毎月のレッスンは、新型コロナウイルス感染症の外出自粛を受けてオンラインでの開催に切り替え、自宅からでも一緒に踊り、楽しむよう工夫し、ダンスの後には好きな本や自分のルーツの国の食事・国旗を紹介し合うなどしました。ケニアの子どもたちとオンラインでつないでの交流、ママたちが悩みや経験を分かち合う「オンライン・ママ会」も行い、全国からの参加者がつながりあうことができました。

アフリカにルーツを持つ中高生、若者のためのコミュニティ、**アフリカンユースミートアップ**の活動もオンラインでの実施となり、「わたしたちの声 わたしたちの想い ーブラック・ブラックミックスの若者からメッセージー」や「マイクロアグレッションについて話そう」など10回のイベントや交流会を開催しました。

ユースが主体的に会を運営し、SNSでの発信も活発に行い、「インスタライブ」にも挑戦。また、大学の講義や他団体のイベント、メディアで話す機会も増え、多くの人に経験や思いを伝え、意見を交換する場を持ちました。



02

在日アフリカ人との連携・支援

アフリカにルーツをもつ人々が安心して生活できる社会を実現する

日本で暮らすアフリカにルーツをもつ人々が安心して、差別や排除されことなく生活し、人権が尊重される社会を実現する。そのために、在日アフリカ人の皆さんと勉強会・交流会や、アフリカへの理解・関心を高める活動をしています。在日アフリカ人の同郷団体、なんみんフォーラムなど難民支援団体とも連携・協力を行っています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症による国境封鎖の影響などで不安が広がる中、アフリカ各国や日本の出入国情報などの収集・提供をしました。また、オンライン交流会「留学生ミートアップ」の開催など、心配事の共有や情報交換の場づくりを行いました。移民・難民の人びとと連帯する活動を行う団体との情報交換や、入管法改正案の問題などにも取り組みました。

三大感染症対策・保健システムの強化に向け、当事者・市民社会が連帯する

2000年代のはじめより、アフリカの市民社会とともにHIV/エイズへの取り組みを開始し、以降アフリカ開発会議（TICAD）やG20、SDGsに関する政策提言などあらゆる機会をとらえて、アフリカやアジアの当事者グループや市民団体と共に、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）への十分な資金拠出、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを草の根から実現するためのNGOやコミュニティ、当事者組織の支援などについて**政策提言**しています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが広がる中、特に深刻な影響を受ける人びとに注目した支援体制の構築、知的財産権の免除を含む**医療への公平なアクセスを求めるキャンペーン**を、他団体と協力して展開しました。また、市民の勉強会を主催してコロナ関連情報の収集、整理、提供を行い、草の根で活動する市民団体の人びと同士が情報や意見を交換しあう場をつくりました。

最新のコロナ情報とグローバルな市民社会の声を届けるため、**ブログ『国際保健とCOVID-19』**を執筆し、**メールマガジン『グローバル・エイズ・アップデート・プラス』**などで発信。また、メディアの取材にも積極的に対応し、アフリカと世界の保健の課題について新聞やウェブメディアなどを通じて多くの人に伝えました。

ワクチンナショナリズムなどと言われる中ですが、「すべての人が安全でなければ誰も安全ではない」「分断ではなく、連携・協働でCOVID-19を克服しよう」と呼びかけ、活動しました。



グローバルファンド「コミュニティ・人権・ジェンダー戦略イニシアティブ」（CRG-SI）についてわかりやすく伝えるパンフレットを8月に発行



「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会で、外務省に要請書を2021年2月17日に提出



「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会を他NGOと結成。ウェビナーを12月16日、2021年2月23日に開催し、課題と現状を発信

アフリカ調査・研究

さまざまな知見を動員し、政策提言につなげる

アフリカの課題や現地市民社会の動向等について、多様なアフリカの関係者と連携しながら、調査・研究を行っています。収集した情報は、セミナーやイベント等で発信し、日本の人びとの理解を促し、解決に向けた支援や政策提言につなげることをめざしています。

2020年度は、アフリカの新型コロナ関連情報に加え、ブルンジやモーリシャスでのニュースを受け、オンラインでのセミナーを開催し、多くの人びとの理解を深めることができました。



ブルンジで大統領の急死を受け、ウェビナーを6月22日に開催



モーリシャス石油流出事故について現地市民団体と連携し、ウェビナーを9月23日に開催。支援を呼びかけ寄付を集めた

農業と食料安全保障

農民の生活と飢えの仕組みを知り、ともに考え、行動する

05

2001年、食料問題に対するアフリカの人びとの取り組みに対し、日本にいる私たちがどのように支援・協力できるのかを考え、社会に提言していくため、食料安全保障研究会を発足させました。2020年のFAO(国連食糧農業機関)らの報告によると、世界で6億9000万人が飢餓に直面しており、アフリカでは2億5000万人にのぼります。紛争、気候変動、経済の停滞などの要因に加え、新型コロナウイルス感染症によりその状況は深刻化しています。AJFでは、こうした状況を伝える**FAOのレポートを翻訳する学習会**を定期的に行い、ウェブサイトで発信。またFAOや他団体と一緒に「世界食料デー」月間のイベントを毎年10月に開催しています。

2020年の「世界食料デー」月間2020では、「持続可能な食料生産に向けて」「栄養不良の解消に向けて」「食品ロス削減に向けて」のテーマで、連続3回のオンラインセミナーを開催。のべ500人以上が参加しました。また、フードロス対策を進めるため、横浜市資源循環局とも協力して一緒に取り組みを行っています。



「世界食料デー」月間のチラシを学校などに配布

06

アフリカ政策への提言活動

市民社会として、アフリカの人びとの声を届ける

1993年の第1回東京アフリカ開発会議(当時)を契機に設立されたアフリカ日本協議会は、以来、国内外の市民団体・個人とともに政策提言のとりまとめ、サイドイベントの開催、本会議の参加手続きの情報共有や支援、外務省との交渉・連絡調整等を中心的に行ってきました。

2022年にチュニジアで開催される第8回アフリカ開発会議(TICAD 8)に向け、2020年度はより効果的な活動と仕組みを再構築すべく、**TICAD NGO連絡グループの事務局**として、情報提供、情報交換の機会を持ちました。

また、他団体と協力して「アフリカ最後の植民地」西サハラについてセミナーを開催したり、モザンビークの大規模開発の問題を外務省や財務省との定期協議で問題提起したりしました。

熱帯林と野生生物保全

森と野生生物とヒトの関係を知り、発信する

07

アフリカ中央部にある**コンゴ盆地**は、世界有数の貴重な熱帯林が広がっています。AJFは同地における自然環境や野生生物、またその地域で暮らす先住民と呼ばれる人びとの生活を取り巻く課題について、AJFのウェブサイトでの発信や講演などを通じ、情報発信と普及活動を行っています。

特に象牙消費と関わる**マルミソウの密猟**や、日本でもペットとして需要の高い**ヨウム**の保全に関する問題を取り上げています。

2020年度は、熱帯林と野生生物保全についてのニュースをウェブサイトやメーリングリストなどで発信。国内メディアではあまり取り上げられないトピックについて、多くの人の関心を深めるきっかけを作りました。



『アフリカNOW』は、会報として1994年8月に創刊準備号を発行し、現在116号(2021年2月発行)まで発行しています。多彩な執筆者により、AJFの活動や、アフリカと日本の課題や話題に関する記事を掲載。2020年度は3回発行しました。また、AJFのウェブサイト『アフリカNOW』の各号の目次を掲載し、希望者に販売しています。さらに、発行日から一定の期間においてウェブサイトで公開。アフリカへの多角的な理解を促すことをめざしています。



■ 最近の主な記事

第116号 (2021年2月発行)

- 「特集：新型コロナ 公正な医療アクセスをすべての人に」
危機の克服に取り組む南アフリカの市民社会 リアズ ハーリッド タヨブ、ほか
- 「30年をタンザニアで暮らして」 金山 麻美
- 「アフリカにルーツを持つ人々と変革する日本社会」 ボンクジョビ セナ、三浦 アーク、ほか

第115号 (2020年11月発行)

- 「特集：アフリカ日本協議会の25年とこれから」 『アフリカNOW』編集部
- 「西サハラ：『グデウム・イジーク抗議キャンプ』を忘れない」 箱山 富美子、ほか

第114号 (2020年9月発行)

- 「特集：アフリカにおける新型コロナへの取り組み」
新型コロナ：異次元の危機のただなかでアフリカ、世界とどうつながるか 稲場 雅紀
ギニアのCOVID-19専用病棟で入院を体験する 井上 保子、ほか

アフリカの人びとと共に活動する仲間として、AJFの活動を支援してください

会 員

アフリカ日本協議会 (AJF) は、ここで紹介した以外にもさまざまな活動を、アフリカの人びとと共に実践しています。AJFの会員になって、アフリカとのネットワークを広げませんか？ 学生やアフリカに関心を持ち始めた方も歓迎です。

詳細・お申し込みは、<https://ajf.gr.jp/join/> をご覧ください。



AJF入会案内

寄 付

みなさまからのご寄付で活動がさらに充実します。あたたかいご協力をお願いします。

以下のいずれかの口座にお振り込みください。クレジットカードの場合は右記QRコードからアクセスするか
<https://kessai.canpan.info/org/ajf> をご利用ください。

【郵便振替】00120-3-573276 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

【銀行口座】三菱 UFJ 銀行上野支店 (普) 5305887

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

※銀行口座への振り込みの場合は、info@ajf.gr.jp までご連絡をお願いします。



クレジットカード
入力画面

連絡・問い合わせ先

NPO法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階

E-MAIL : info@ajf.gr.jp / TEL : 03-3834-6902

<https://ajf.gr.jp/>



<https://www.facebook.com/Africa.Japan.Forum/>



https://www.instagram.com/africa_japan_forum/



<https://twitter.com/AfricaJapanF>